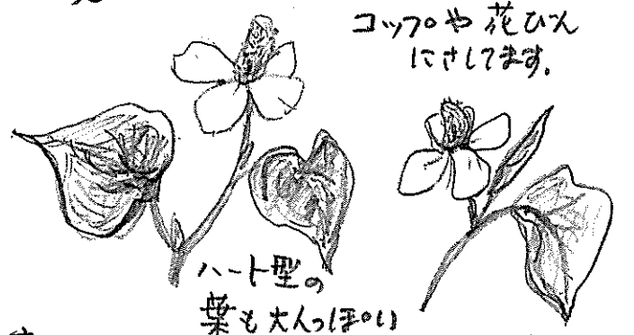
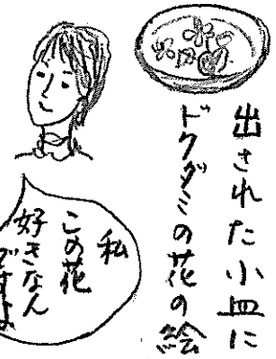
けやき通信

2016. 6月 No. 276

― 錦織 佳代子 ―

白い小さなドクダミ(十薬)の花が
庭のあちこちに。


コップや花びんにさしてます。
ハート型の葉も大人っぽい



昔、在職中に東京お張のとき、あちらのA氏に帝国ホテルの天ぷらの店でごちそうになった。

出された小皿にドクダミの花の絵が。

するとA氏は中居さんに

お皿をゆずってもらえませんか、もちろんお代はお払いします

聞いてまいりますので少々お待ち下さいませ

申し訳ございません、それはできないということで…!

いえ、いいんですよ

私は恐縮…

帰るとき そっと小さな紙包みを手渡された

すじを通すといけないということですが すじを通さなければいいので、どうぞお持ちかえり下さいませ

年配のスッと背すじの伸びた方でした

⇒ いつもこの季節、私用に使っています。

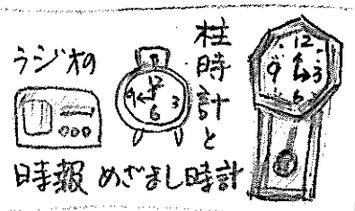
十薬や真昼の闇の白十字

茅舎

皿は青味がかった明るい灰色

6月10日 時の記念日

小学校のとき先生に教えられた。この日、「時計のネジを巻きましょう」



吹揚城跡から正午の時報サイレン。

夜9時、市役所からミュージックサイレンが…

あのころ「時」はもう少しゆっくり流れ、まわりの人と時間を共有してた。今はみんな別々…。

S33年からH7年まで。

読書ノート

雨の季節、心もからだもしずみがちですね、心配ごともいろいろ。年をとるってほんとうに大変なことだと思います。窓の外でハスの葉がゆれるのをぼんやり眺めて…、こんなひとときがありがたい。

● 亡き人へのレクイエム　池内紀 著　みすず書房

「ペンによる28人の肖像画」。言葉で書かれたからこそ、著者が出会った忘れがたい人々に私も会える。自分に正直に誠実に生き、足跡を残された方たちだ。この人たちみんな死んでしまった――なぜ?――。私たちは死者によって生かされてるのか…私の"その日"はいつ来る――。巻末に遺された本のリストがあり、図書館で借りて読んでいる。今も生きて、未知の私に語りかけてくれ、胸にしみる…。

● 片手の郵便配達人　グードルン・パウゼンヴァング　高田ゆみ子訳、みすず書房

この夏、ぜひ読んでほしい本、特に高校生にも。第二次大戦下のドイツ。戦争が終わるまでの10ヵ月間の物語。17歳のヨハンは戦地に送られ2日目に左手を失う。村に帰ったヨハンの仕事は郵便配達。村々の描写が美しい。戦地からの便りを待ちわびる人々に、戦死の通知も届けねばならない。じわじわと戦争の恐ろしさがしみてくる。日本も同じだった思いもよらない結末は、私たちへの警告。「日本の皆さんへ」と著者からのメッセージがあり、戦後、ドイツが自らの過ちにどう向き合ってきたか。日本も同様に周辺国において非道な行いをした。その事実とどのように向き合ってきたか。「人は誠実であるべきです……」。このメッセージと訳者のあとがきも読んでほしいです。

畑のよこに咲いていた、鹿の子草

こいピンクの小さな花があつまそ

鹿の子絞りに似ている。

彩りピクルス　さっぱり、かんたん おいしい　4~6人分

大根 1/4本
きゅうり 2本
人参 中1本

① 4~5cm長さ、5~6ミリ角に切る。

② 小鍋にⒶを入れ沸とうさせる。人参を入れて混ぜ火を止める。大根を加え、そのまま粗熱とる。

③ ポリ袋2枚重ね②を入れ冷めたらキューリを入れ全体をなじませ空気をぬいて口をとじる。

Ⓐ さとう 大さじ 3~4
塩 小さじ 1~2
酢 100~150ml
生姜 うす切り大 5~6枚
赤唐辛子 2~3本

30分後 → 5日ほど冷蔵庫で保存可。

色もきれい
パプリカも入れたり

料理にちょっと添え弁当にも